

【講演1】 香りがこころに及ぼす影響:脳のストレス応答と嗅覚のメカニズム

元東邦大学 理学部生物学科/大学院 理学研究科教授 増尾 好則 氏

【講演要旨】

ストレスは精神障害発症の危険因子であることが知られています。しかし、ストレスから障害発症に至る過程で生じる脳内変化の詳細は明らかになっていません。私たちは、ストレスが脳に及ぼす影響に関する研究を進めていくなかで、ストレスによって発現変化する新規バイオマーカーを多数見出しました。これらマーカー群は、障害発症メカニズムの解明に資すると共に、発症の予防に貢献すると考えられます。また、嗅覚は哺乳類にとって重要な感覚であることから、嗅覚刺激の影響を解析したところ、コーヒー豆やゴマ油の香り、および各種アロマの香りは、行動や脳内の遺伝子・蛋白質発現に影響を及ぼし、ストレスを抑制することが分かってきました。香りの影響を明らかにすることは、生体の理解が深まるだけでなく、香り成分の有効利用を通じて社会に貢献し得ると考えます。今回は、ストレスと精神疾患についてお話した後、嗅覚の脳内メカニズムおよび香りのストレス抑制効果について紹介したいと思います。

【講師プロフィール】

1986年 筑波大学大学院医科学研究科 神経生化・薬理学専攻
修士課程修了、医科学修士取得

1990年 パリ第6大学大学院神経科学専攻 博士課程修了、Ph.D.
in Neurosciences 取得、

武田薬品工業(株) 医薬開拓研究本部筑波研究所・研究員

1993年 同上研究グループ長

1994年 博士(医学)取得(東京大学)

1997年 同上主任研究員、東邦大学医学部第2生理学講座・助手

2000年 工業技術院生命工学工業技術研究所(現 産業技術総合研究所(産総研))・特別研究員

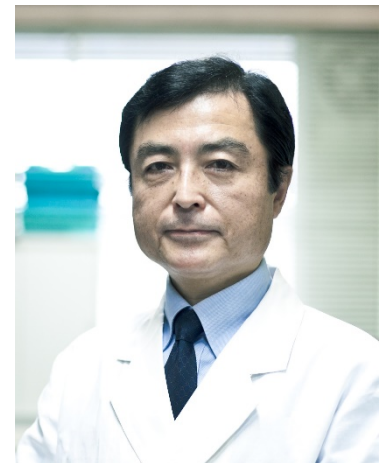
2001年 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)フェロー(産総研勤務)

2005年 産総研ヒューマンストレスシグナル研究センター・精神ストレス研究チーム長

2008年 同上設置期限終了に伴い、産総研健康工学研究センター・精神ストレス研究チーム長

2010年 東邦大学理学部生物学科/大学院理学研究科生物学専攻 神経科学研究室・教授

2022年 同上定年退職



【研究テーマ】

脳機能の解明を目指して研究を行ってきました。主なテーマは以下の通りです。

- 1) 大脳基底核の機能
- 2) 神経ペプチド(PACAP、ニューロテンシンなど)の機能

- 3) 海馬特異的カルシウム結合蛋白質の機能
- 4) 発達障害における多動の機序(環境化学物質の影響を含む)
- 5) ストレスから精神疾患に至る過程の機序
- 6) 香りが脳のストレス応答に及ぼす影響

【講演 2】 グローバルな化粧品法制度の基本と中国における新化粧品法規の施行について
三愛コスメヴィジョン株式会社 チーフコンサルタント 高橋 理佳 氏

【講演要旨】

日本では化粧品の効能の範囲として 56 効能が規定されており、「乾燥による小ジワを目立たなくする」以外の効能については担保データの保管や提示は求められていません。一方で EU・ASEAN・中国など海外の多くの国・地域では効能担保データの保管や提出が法律により義務付けられています。

このため日本企業が海外に製品を販売する際、効能担保データの取得が大きなハードルとなっています。担保データの取得を単なる薬事対応としてとらえるのではなく、製品の特徴や訴求などマーケティング戦略に大きくかかわる全社的課題として製品設計のしくみ自体を変革していく必要があります。

本講演では主要国の効能訴求規制の概要と日本企業が留意しなければならない点を中心に説明します。

【講師プロフィール】

1979 年 4 月から 2020 年 10 月まで株式会社資生堂で勤務、グローバルな化粧品規制戦略業務を担当。

現在は三愛コスメヴィジョン株式会社にて化粧品法規のチーフコンサルタントとして活動中。

日本化粧品工業連合会では要職を歴任。

- 2014 年より国際委員会中国部会長。

日本の化粧品業界を代表して数々の国際会議に参画。

- ISO TC217 WG-4 メンバーとして ISO 16128 策定に貢献(2021 年 2 月より WG-4 Convenor に就任)

